第4章 LIFE の事例

6 単元計画 2 異文化を探求しよう(配当時間計14時間)

,	0 ・ 十 ノ は 一 四 2 ・ 異文化を採水しよう(配当時間計 1 4 時間)		
	題目(配当時間)	学 習 内 容	指導上の留意点
	調査活動	探求活動のテーマについて関連	プレゼンテーションの時間制限
	(3時間)	文献や資料を集め ,理解を深める。	を意識させつつ,理解が深まるよ
		講演をしてくれた人と交流を	う助言する。
		継続し,電子メール等で質問を	講演者に対する質問は,なぜそ
		し,探求活動の助けとする。	の質問がしたいのかが伝わるよう
			になっているかを点検させる。
	探求活動のまと	過去の生徒が作ったプレゼンテ	発表を効果的なものにするため
	め・プレゼンテー	ーションの絵図を提示し,その発	に,必要な情報は何かを考え,原
	ションの構想完成	表の内容を推測させることで,絵	稿や絵図の作成に活かす。
	(2時間)	図と内容が一致していることの重	絵図とその提示方法が,聞き手
		要性に気づかせる。	の内容理解を促すものであるか,
		自分たちのプレゼンテーション	グループで考えさせる。
		の構想を,使用する絵図を柱に整	
		理させる。	
	中間発表	聞き手からのアドバイスや	プレゼンテーションの教師評価
	(1時間)	グループ内での意見をもとに,	と同じ観点で評価し,助言する。
		課題の修正,内容の削除・追加	
		を行う。	
	原稿・絵図の	絵図や原稿を完成させる。	聞き手にとっての未知語をどの
	完成(3時間)		ように理解させるか考えさせる。
	リハーサル	各グループでリハーサルを行	プレゼンテーションの教師評価
	(2時間)	う。必ず教師も一度は立ち会う。	と同じ観点で自己評価させ,改善
			点を自分たちで発見させる。
	プレゼンテーシ	プレゼンテーションを通じて,	プレゼンテーションの相互評価
	ョン (2 時間)	TCへの理解を深め,効果的な	をさせることで、聞き手の役割を
		発表の方法を考察する。	明確にし,内容理解を促す。
			教師がまとめないよう注意する。
	活動の反省	見ていた生徒からの評価や自	相互評価は,観点別に一覧にさ
	(1時間)	己反省を,反省の材料とする。	せておくと効率がよい。
		個人の反省とグループの反省	·
		を行う。	して話し合わせ,無駄な時間をな
			くす。
	_		

第4章 LIFEの事例 評価の観点と方法 教科学習とのつながり など 【技能・表現】 <教科内容とのつながり> 必要な資料が集まっているか (行動観察・自己評価) 「情報活用能力(国語・LIFE ほか各教科)」 【技能・表現】 情報を集め、まとめ、表現する プレゼンテーションで伝えたいことは何か、「諸地域世界の特質の理解と認識 集めたデータの中から,整理できるか (地歴)」 データをもとに実態を把握する (自己評価・相互評価) 他の地域や過去との比較 思考の過程,根拠,論理性などが構想に活 「結論や結果の類推(数学・理科) きているか (記録分析) 論理的な思考・判断 【技能・表現】 データを収集・分類整理し,図表やグラフ に表すことができるか 「コミュニケーションの手段としての英 ・データ収集の方法の記録 語を操るのに必要な技能」(英語) ・データ管理,分析の記録 ・表現の工夫 (自己評価・相互評価・教師評価) 【技能・表現】 中間発表・リハーサルして経験したこと を、本番に活かそうとしているか (行動観察) 以下の観点について5段階で評価する (相互評価・教師評価) (図4) 聴衆を引きつける工夫 絵図の提示方法 (図3:ビデオ映像を利用した発表の様子) プレゼンテーションの内容 プレゼンテーション評価用紙 名前 <以下教師評価>

(1)5段階で評価しなさい。(5が非常に優れている)

聴衆を引きつける工夫 5 - 4 - 3 - 2 - 1

絵図の提示方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1

プレゼンテーションの内容 5-4-3-2-1

(2)特に印象的だったことは何ですか。

作業の手順やペース 発表当日の人の動き | (3)発表内容で,よくわからなかったことは何ですか。

(図4:相互評価用紙)

グループの協力体制

テーマについての理解

本番の発表を以下の観点で反省できている

テーマの設定 個人の役割分担

(記録分析・自己評価)

時間の使い方